博物館だより

昭和47年8月1日（1972）
岡山県立博物館館報No.2

館蔵品コーナー

◆ 仿製内行花文鏡 ◆

備前市鶴山丸山古墳出土　径　20.8cm

この鏡は丸山古墳から車輪石、盤、合子等多数の碧玉製品とともに出土した三十数面の鏡の一つである。仿製鏡としては大形に属するもので、後漢代の長宜子孫内行花文鏡を模しよくその面影をのこしている。

この種の大形仿製鏡は、一般に仿製鏡中では優れたできを示すものであり、この鏡も銅質、鋳あがりとも良好で、同時に出土した三十数面中最もすぐれたものの一つである。

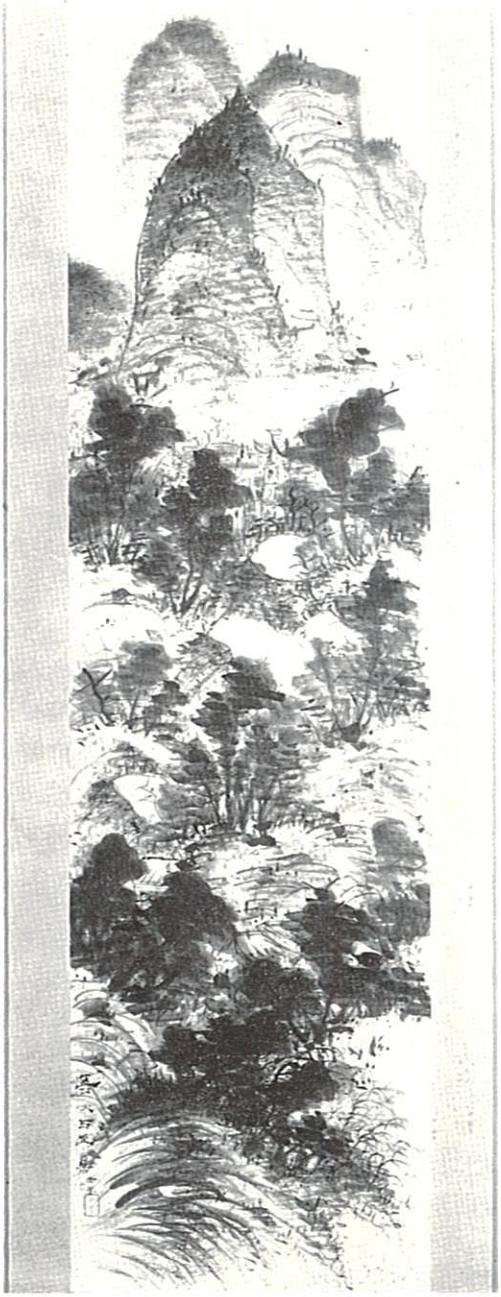
出土の状況は明らかでないが、鏡面にのこる痕跡からみて、立てかけた状態に置かれていたものと考えられ、保存は極めてよく、銹化していない黄色の青銅地金の質を全体に保っている。文様の施された鏡背は、緑色の銅銹と赤色の顔料が文様を浮き立たせて美しい。赤色顔料は文様の凹部に付着しているが、鈕および鈕座の部分では全面に塗布されていたようである。（高橋）

開館一周年特別展

「岡山県の絵画」

—古代から近世まで—

特別名勝岡山後楽園の外苑に岡山県立博物館が開館されて、はや1年がたちました。県内に残された貴重な文化財を展示することにより、岡山県の歴史を解説し、その研究を深め、普及していくことが、



浦上玉堂筆吾与山楽図　館蔵

県立博物館に当初あたえられた使命でありました。

全国的にも特徴あるこの博物館は、開館以来、特別展「岡山県のやきもの」展、第1回「常設展示」第2回「常設展示」と行事を重ねてきましたが、この間、約423.000人という多数の観覧者を迎えました。

このたび、開館1周年を記念して、特別展「岡山県の絵画—古代から近世まで」を開催することになりました。古墳時代の須恵器に描かれた線描刻画から、近世末期の藤本鉄石衣笠豪谷に至る千数百年間にわたる日本絵画の歴史を、岡山県という1地域の舞台の上に再現してみようという意図で企画されたものです。

本館が、このような企画をもった理由には、県内には国宝をはじめ多くの重要文化財級の絵画が残されているにもかゝわらず、1ケ所に集められて県民をはじめ研究者等に公開されたことが、まだ1度もないこと、すぐれた画家が多数輩出しているにもかゝわらず、今日その作品が充分知られていないこと、これらの絵画を通して岡山県の歴史が学ばれる機会が少なかったことなどがあげられます。

今回の「岡山県の絵画」展では、現在県内の各地に収蔵されている絵画のうち代表的な名品、かつて県内にあって、いつのほどにか県外へ流出した名品、岡山県の歴史の1場面が如実に描かれている作品、岡山県が生み出した著名な画家の作品等が出品されますが、なお絵画の歴史の空白部分を補うために、全国的な名品数点も出品が予定されております。指定物件の面から記しますと、国宝5点、国指定重要文化財13点、県指定重要文化財7点、未指定23点、計48点の絵画が出品され、未指定のものにつきましても、国指定文化財級のものが数点含まれております。地方でこれほどまでに質量の整った文化財が公開されることは、文字どおり空前のことであります。

つぎに、主な展示品を紹介します。

古墳時代は全国的に絵画の遺品は少なく、今回は新見市唐松出土平瓶線刻画(東博蔵)を展示します。

奈良時代では、絵因果経断簡（東京五島美術館蔵）。

平安時代では、仁平三年の銘が発見された普賢延命菩薩（尾道市持光寺蔵）、安養寺裏山経塚出土の図像瓦等。

鎌倉時代では、餓鬼草紙（岡山市内某寺旧蔵、京博蔵）、法然上人絵伝（京都市知恩院蔵）、一遍上人絵伝（京都市歓喜光寺蔵）、両界曼陀羅図（笠岡市持宝院蔵）等。

室町時代では、十二天像（英田町長福寺蔵）、雪舟筆山水図（倉敷市大原家蔵）、雪舟筆慧可断臂図（愛知県斉年寺蔵）等。

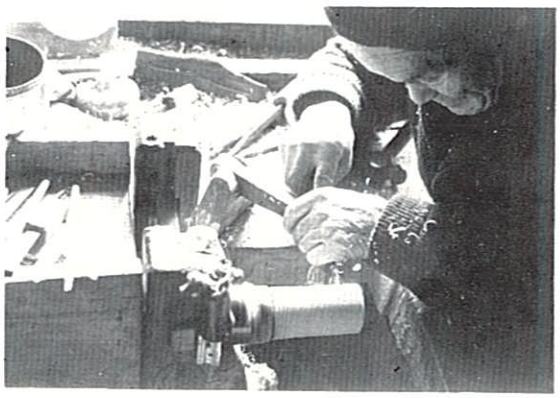
桃山時代では、長谷川信春筆花鳥図（御津町妙覚寺蔵）、宮本武蔵筆芦雁白鳥図（東京都永青文庫蔵）等。

江戸時代では、菊慈童図（倉敷市蓮台寺蔵）池大雅筆児島湾真景図、浦上玉堂筆山雨染衣図（倉敷市大原家蔵）、広瀬台山筆花鳥図(津山市苅田家蔵)、司馬江漢筆富嶽遠望図（岡山市妙応寺蔵）、田代忠国筆干将莫邪図（邑久町若宮八幡蔵）、岡本豊彦筆山水図、古市金峨筆孔雀図（久世町薬王寺蔵）等。

期間・料金・講演会はちらしのとおり。

民具収集奮戦記 —木地のふるさとをたずねて—

湯原町の田羽根というところはかつて木地師と塗師の聚落であった。一村殆んどが小椋（おぐら）姓であるため、本屋・中塗師屋・福本屋などという屋号で呼ばれている。昔は隔離された谷あいの寒村であったろうが今は蒜山への大きな道が村を横切り少しづつ開発されつつある。12月22日勝山高校の兼宗さんを案内役にお願いしてまづ小椋朝太郎さんを訪ねた、朝太郎さんは明治28年生まれ、田羽根でロクロを廻しているただ一人の木地師である。



木地をひく小椋さん

「ワシは17才の時オヤジに教えてもろうてロクロを始めてナ」と昔を思い出して木地の話を始めた。気むづかしそうであるがその容ぼうにはロクロ一筋に生きてきた独特の職人気質と朴訥な人の善さ、眼の美しさが感じられる。

「初めはワン木地のやといこみをしたなあ、今でもええもんをひく時には足踏ロクロを使うとりますがナ」やといこみというのは自宅に仕事場を持って師匠に通いで来てもらって習うことである。ワン木地をひくことは木地師の仕事としてはもっとも基本になる技術とのこと。

話が興にのってきたのか足踏ロクロは明治の終りまであったこと、紀州人が田羽根へ持ちこんだこと、水車ロクロができておもに大型の木地をひいたこと、自分は7年くらい前からモーターを使いだしたことなど、若い頃をなつかしむかのように木地師の昔の生活から道具のことなど話してくれた。木地師がロクロをひくのを見たことがなかった私は仕事ぶりの見学を頼むと

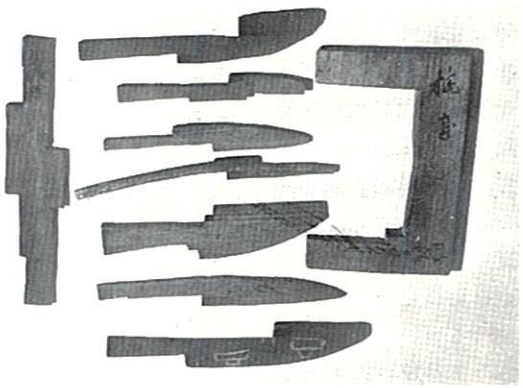
「ひとつやってみますかナ」とわざわざ部厚い毛糸の帽子をかぶり仕事場へ降りた。

「この頃は土産物のコマをひいとります」

と文福茶釜のような形のコマをみるみる仕上げてゆく、内部を中空にするために上部と下部をワン型にして合わすのだが一分のくるいもなく吸いつくようにピッタリしている、何十年もの間にとぎすまされたカンひとつでする仕事のきびしさが感じられる、まさに明治を伝える手である。

兼宗さんに促されて次の目的地に向かう。入口に立つと同時に私はそこに立ちすくんでいた、コタツの側にテレビこそあったが100年前の生活もこのまゝであったろうかと思われた。家のつくりも物の位置も何ひとつも変っていない、入口の頭上にはもう今は誰も使わないワラジやツマゴが10数足かけてある、長い時間凍結されていたかのように静かに昔を物語っていた。前もってお願いしてあったので倉の中へ案内された。あった、あった！木地師の道具も製品もやはりそのまゝになっていた、手廻しロクロ3個、こしかけと半製品がリンゴ箱1ぱい、カンナ数十挺、といし、定規など数十個どれもみな木地師の技術と生活を知るに貴重な資料ばかりである。兼宗さんのお人柄とお骨折りによってこの地方での木地の資料は完ぺきと思われるまでに収集することができた。

誠実な青年当主とキリリとした感じの奥さんがいつまでこの家の状態を残してくれるであろうか、どうしても、もう一度来訪しなければならないと思いながら、なるべく家はこのまゝにしておいてくださいと何度もお願いして、木地師の総本家のあるかくし谷へと向かった。（森田）



木地の寸木（ものさし）

おしらせ

○　4月1日より「岡山県の歴史と文化」の第2回常設展示を行なっています。今回の展示品の主なものは、伝邑久町阿仁神社境内出土銅鐸・倉敷市蓮台寺裏山出土銅剣・総社市三輪山遺跡出土特殊器台・久米町九日場古墳遺物・馬評銘須恵器長首壷・東寺文書のうち六波羅施行状・岡山市一宮吉備津彦神社境内地出土金銅製経筒・久米南町仏教寺裏山経塚出土遺物・岡山市金山寺文書・岡山市竹原明王寺蔵木造聖観音立像・岡山市東山常住寺蔵木造毘沙門天立像・和気町安養寺蔵木造阿弥陀如来坐像・同寺蔵銅製五鈷鈴・津山市一宮中山神社文書・落合町木山寺文書・備前市閑谷学校蔵閑谷学図・津山市上原氏蔵広瀬台山筆山水図などです。

また、民具では商業用具を展示しました。なかでも吉備古銭協会から、古代より近世を通じての古銭を出品していただきました。刀剣は、今回は日本美術刀剣保存協会より南部岡山県支部の会員御所蔵のもの、および真庭分会の会員御所蔵のものをご出品いただきました。また津山郷土館からは津山蘭学資料を一括出品いただきました。

貴重な文化財を心よくご出品くださいました各位に厚く御礼申しあげます。

●　46年度の新収品のうち主なものは実物資料では、備前市新庄天神山古墳出土石枕・津山市横山出土陶棺・熊山蓄山書簡・宇田川玄随書簡・太刀銘「則宗」・浦上玉堂筆山林清閑図・備前焼大甕（元亀銘）など、模型資料では縄文時代丸木舟・平城宮跡出土木簡・備前国津高郷陸田券・法然上人消息・東寺百合文書（新見庄関係）・重源上人肖像などがあります。順次陳列してゆきます。

●　6月17日、本年度第1回の学術講演会を開催いたしました。備中国新見庄の歴史とその新史料の発見について、東大史料編纂所教授杉山博氏と京都府立総合資料館古文書課長上島有氏に約3時間にわたり講演をいただきました。新見庄の一地域を中国縦貫道が通る予定になっており、全国に稀な中世庄園遺跡の保存がさけばれております。多数の御来聴有難うございました。

●　7月12日に旭川が増水し、本館の西側の遊歩道の上まで水位があがりました。多くのかたがたからお見舞をいただき有難うございました。この紙上をかりまして御礼申しあげます。なお収集品の一部に被害があったのではないかと御心配を頂いたかたがたもありましたが、後楽園職員との協力によりえん堤にて浸水をくいとめ、わずかに増水した旭川より浸透してきた地下水で地下水槽が満水になった程度でありました。

●　2Pに掲載しましたように10月17日（火）より11月5日（日）まで特別展を開催いたします。この展示替のため10月13日から10月16日までと11月6日から11月8日まで休館いたします。なお11月9日より来年の3月末日まで新しい企画で常陳展を開催します。特別展ともども御期待下さい。

◎　図録を販売しております。ご利用下さい。

「岡山県の歴史と文化」	1部	450円
「岡山県の刀剣」	1部	400円

博物館日誌（主なもの）

昭和47年4月1日　本年度常陳展開始

6月17日　昭和47年度第1回学術講演会開催

講師　東京大学史料編纂所教授
杉山博氏
「備中の国新見庄の領主と農民」
京都府立総合資料館古文書課長
上島有氏
「東寺百合文書と新見庄」

7月12日　旭川増水

7月28日　昭和47年度第1回博物館協議会開催

8月5日　常陸宮御夫妻御来館

博物館だより №2

発行日　昭和47年8月1日

発行者　岡山県立博物館
館長　石川吉郎
岡山市後楽園1－5
電話（岡山）72－1148